



新年のごあいさつ

見附市長 久住 時男

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、住んでいるだけで健康で幸せになるまち「スマートウエルネスみつけ」に向けた取り組みが、持続可能なまちづくりのモデルとして「SDGs未来都市」・「自治体SDGsモデル事業」に県内自治体で初めて選ばれました。SDGsは、持続可能な社会を目指すための世界共通目標であり、国内でも官民間問わず積極的に取り組まれています。全国の自治体が超高齢・人口減少社会で地方創生を目指す中、見附の今年度の視察件数は12月時点で100件を超え、市民アンケートでも9割弱の方に「住み良い」と回答いただいております。日頃よりまちづくりにご協力いただいている市民の皆様に向けて感謝申し上げますとともに、100年先も続く見附を目指し、今後も皆様と一緒にチャレンジを続けてまいります。

地域を愛する市民が「喜び」「生きがい」を感じ、まちづくりに参加することは、持続可能なまちづくりに不可欠です。一昨年から始まった見附駅前のにぎわいづくりにおける社会実験では、見附高校の生徒や地域の市民、飲食業者など、計画から運営に約140人の方々にご参加いただきました。9・10月のイベントにも一昨年以上の人が集まり、今後の駅前の再構築を考える上で、エリアのさらなる可能性を実感しました。人との交流が生まれるたまり場を目指し、今年も引き続き市民の皆様と議論を進めてまいります。

市では「地消地産」の考えのもと、子どもたちに見附のおいしい米を食べてもらうため、昨年4月から各小学校区の農家の米を月替わりで学校給食に提供しています。(一社)

農村振興センターみつけが米を直接買い付けることで農家の所得は1俵あたり約2千円向上し、愛情込めた米を子どもたちに届けるといふ、農家の新たな「やりがい」にもつながっています。昨年10月からはこの給食米を「小学校米」としてブランド化し、ふるさと納税の返礼品に追加した他、一般販売も始めました。売上金の一部は各学校に寄付し、子どもたちの教育に還元されています。市内外の人が見附の米に親しむ機会を増やすと同時に、農家のさらなる所得向上を目指して、今後もPRを続けてまいります。

施設運営でも将来に向けた取り組みを進めています。昨年6月に稼働した新ごみ処理施設は、市の要望に対し民間が最適な提案を出しやすいう「性能発注」方式を採用し、県内初の「堅型火格子式焼却炉」を導入しました。灰の量や有害物質の排出が少なく、設計から建設、運営までを一括で民間に発注することで、公設公営の想定額と比べ19億円の経費削減に成功しました。昨年から全国初の民間利用が始まった学校給食センターも含め、今後も民間のノウハウを活かした効率的な施設整備・運営を進めてまいります。

先行きの見えない変動の時代の中、見附が今後も生き残っていくためには、既成概念にとらわれず、さまざまな課題にチャレンジしていくことが必要です。本年も持続可能なまち「スマートウエルネスみつけ」の実現に向けて、皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。結びに、市民の皆様にとりまして幸多い年であることを心よりお祈り申し上げます。新春を迎えてのごあいさついたします。



新年のごあいさつ

見附市議会議長 佐々木 志津子

新春をことほぎ、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨年平成から令和へと元号が変わり、市民のみならずにおかれましては健やかに新しい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

新元号となったことで、多くの人々がこれからの時代がより明るく期待が持てる事を願っていることと思います。昨年は、ラグビーのワールドカップ(W杯) 日本大会で史上初の8強入りを果たした日本代表は「ONE TEAM」の

スローガンのもと結束し、皆に感動を与えてくれました。一方で、台風などの影響で日本の広い地域で甚大な被害が出て、今もなお避難生活を余儀なくされている皆さんや復旧活動をされている皆さんがいらっしやることに心痛め、一日も早い復旧・生活再建ができますことを祈っております。そんな中であって、全国からボランティアの皆さんが被災地に入り支援している姿や物心両面において被災地を応援しているニュースを目にして、心強くも心温まる思いでいっぱいです。

さて、自律を選択した見附市では人口減少・高齢化に対応するために「スマートウエルネスみつけ」を推進し、食生活や生きがい・運動や検診などを行い日本一健康なまちづくりのためにさまざまな施策が展開されています。

また、見附市は内閣府からSDGs未来都市に指定され、出かけたくなる場所の創出や歩きたくなる歩行環境の整備、

都市のコンパクト化や過度な自動車依存から脱却を目指す都市公共交通の整備、自然災害への備えを総合的に進める事で「歩いて暮らせるまちづくり」を定着させ「住んでいるだけで健康で幸せになれる健康都市」を目指しています。SDGsは、国連サミットで「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために採択されたものです。

見附市が各施策を推進する中で、市議会も二元代表制のもと「住んでよかった」と思えるまちづくりのために議会の権能を高め・議会の活性化に向け「議会基本条例」の制定に向けた取り組みや所管事務調査の充実、議会だよりの刷新、市民との意見交換会を継続するなど、市民の皆さんの声を大切にしながら信頼される議会となるよう努めて参ります。

昨年の台風の影響により祝賀パレードが延期されましたが、即位の礼で天皇陛下が述べられた「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。」とお言葉は、私たちに勇気と希望を与えて下さったものと感じ入りました。

常に平和を願い、迎えた令和2年が市民の皆様にとって明るく幸多き年となることを祈念致しまして新年のご挨拶といたします。

